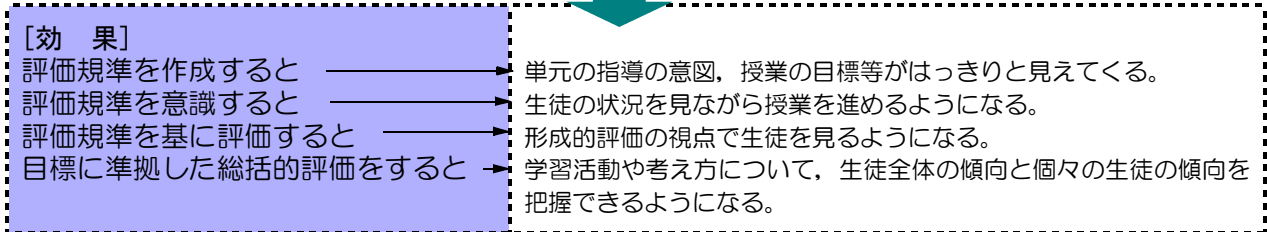
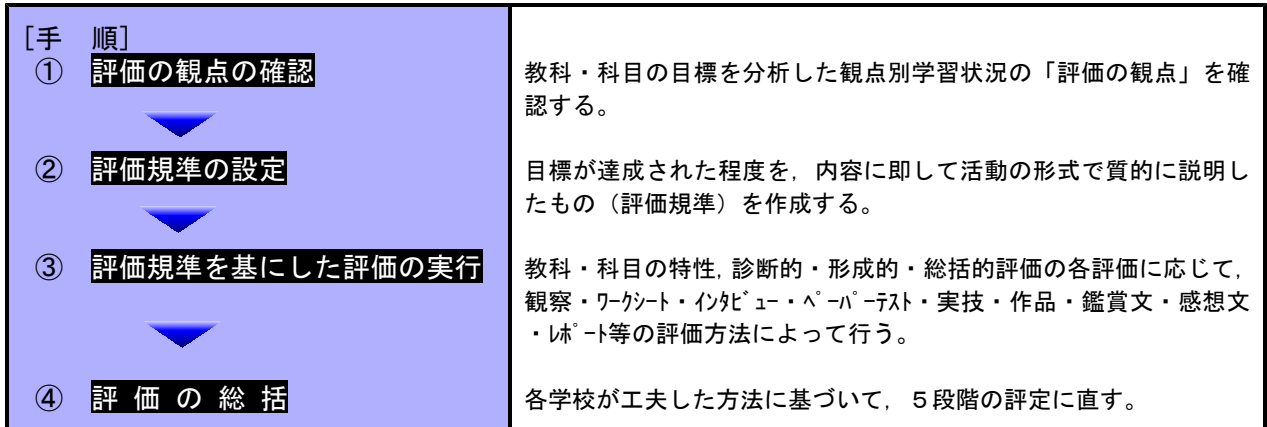


第4章 授業づくりと学習評価に関する一問一答

【総説】

Q1：「指導と評価の一体化」を意識した評価活動の進め方のポイントは何ですか。

A1：「指導と評価の一体化」とは、「指導計画→授業→評価→指導改善」の流れを常に意識して教育活動を展開することです。そのための評価活動の進め方の手順と、期待される効果を具体的に示します。



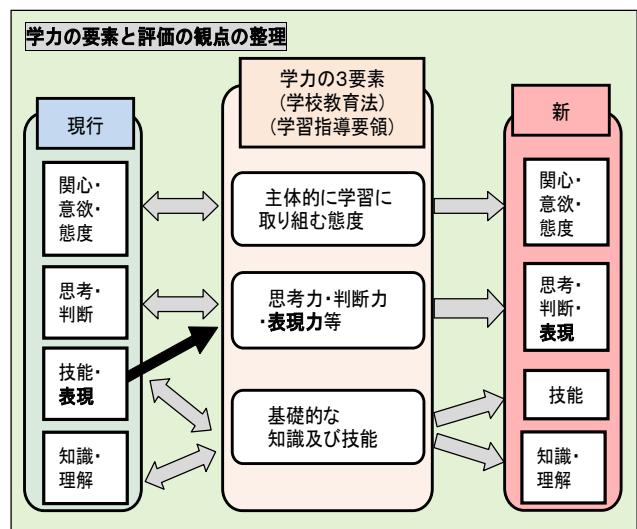
（きめ細かな評価を行うことで、次の指導のための資料が得られ、指導に継続性が出てくる）

指導と評価の一体化を意識した授業改善 → 「わかる授業の実現」

Q2：「学力の3要素」と「評価の観点」の関係は、どのように整理できますか。

A2：観点別学習状況の評価は、各教科・科目の目標や内容に照らして、生徒の実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉えるためのものです。

新学習指導要領の下における評価の観点を整理すると、主体的に学習に取り組む態度は「関心・意欲・態度」において、思考力・判断力・表現力等は「思考・判断・表現」において、基礎的な知識及び技能は「知識・理解」「技能」において、それぞれを評価することを基本としています。

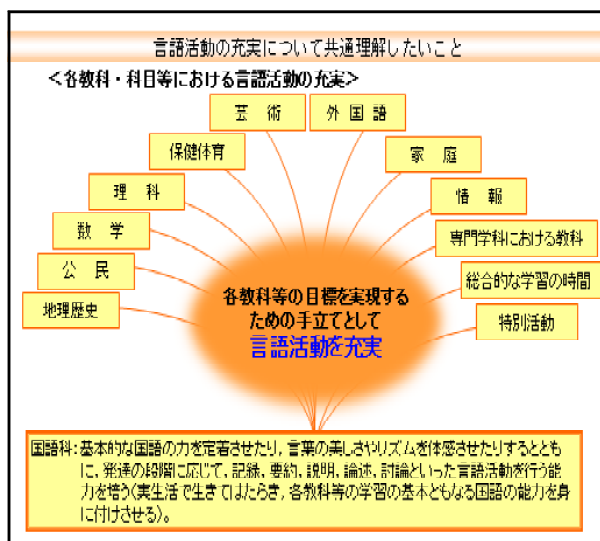


【国語】

Q 3 : 言語活動の充実を図るために国語科ではどのような授業を心掛ければよいのですか。

A 3 : 言語活動の充実、各教科等の目標の実現、内容の習得を図るための手立てとして、また、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するための手立てとして位置付けられています。国語科においては、社会人として必要とされる言語の能力を育成することが教科の目標となります。つまり、言語活動を通して言語の能力を育成するという点が国語科と他教科との違いです。そして、国語科で育成した言語の能力を基盤として、各教科等で言語活動を充実させていくこととなります。

実際に授業を行うに当たっては、生徒に身に付けさせたい力との関係を考慮しながら、次のような言語活動を授業に取り入れていくとよいでしょう。



【「話すこと・聞くこと」の指導】

- 状況に応じた話題を選んでスピーチをする。
- 疑問点を質問したりしながらペアで意見を交換し合う。
- 設定したテーマについてグループで話し合う（マッピング、KJ法等の手法を活用）。
- 調べたことをまとめて発表したり、内容や表現の仕方を吟味しながら聞いたりする。

【「書くこと」の指導】

- 条件を設定して詩歌、随筆、小論文などを書く。
- 資料を収集し、必要な情報を取捨選択してレポートや新聞にまとめる。
- 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知文を書く。

【「読むこと」の指導】

- 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりする。
- 文章を読んで内容を理解し、それを基に自分の考えをもって話し合う。
- 複数の文章を読み比べる。
- 文章を読んで感想を述べたり批評する文章を書いたりする。

Q 4 : 国語における「関心・意欲・態度」の観点の評価はどのようにすればよいのですか。

A 4 : 「関心・意欲・態度」の観点は、学習内容に関心をもち、自ら学ぼうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価するものです。したがって、単に提出物を出したか出さないかなどで評価するのは適切とはいえません。

具体的な方法として、例えば「読むこと」の指導では、各授業時間や単元の終わりに、「授業を通して学んだ、文章の構成や展開、表現の効果などについて自分の考えをまとめる」といった「振り返り」の時間を設け、その記述内容を分析することで、主体的に学習に取り組んだかどうかを評価する方法が考えられます。この他に、授業中の生徒の活動の観察や考査問題を工夫（学習内容に関係させて自分の考えを記述させるなど）することで評価が可能となります。

【地理歴史】

Q 5：地理歴史科において、新学習指導要領実施に当たって、実践上留意することは何ですか。

A 5：中央教育審議会の答申を踏まえ、次の3点について実践上特に留意する必要があります。

① 科目相互の関連の重視

科目それぞれの新たな目標、内容及び内容の取扱いを確認した上で、いずれの科目を履修しようとも他科目との関連付けが図られるよう、計画性をもって指導計画を作成する必要があります。

② 探究する学習を柱とする言語活動の重視

史実を正確に理解し、伝達すること、概念・法則・意図などを解釈し説明したり活用したりすること、情報を分析・評価し論述すること、課題について構想を立て実践し評価・改善することが求められています。

③ 地図や年表など様々な資料を活用した学習の一層の重視

資料活用を重視した学習としては、地図や年表を読み、かつ作成すること、各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物その他の資料を収集・選択し、それらを読み取り解釈すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなどの作業的な活動を積極的に取り入れた、生徒が情報を主体的に活用するような学習活動が求められています。

Q 6：「日本史B」の学習内容として新たに設定された項目「歴史の解釈」では、どのような学習活動を行うのですか。

A 6：「歴史の解釈」の項目は、今回の改訂で重視されている「歴史を考察し表現する学習」の「歴史と資料」に続く位置付けとなります。新学習指導要領には「歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」とあり、資料を活用した考察や検討を通して、取り上げたその事象が大きな歴史の展開の中でどのような位置付けをもつものなのか、その意味や意義を生徒自身が解釈し解明する力などを育てるというねらいがあります。

活動内容としては、資料に基づき、「何が」「いつ」起こり「どのように」変化したのか、「なぜ」そのような出来事や変化が生じたのか、などの考察を行うこととなり、その際、明確な疑問点を含む学習課題を設けたり、生徒が必要な資料を活用しながら考察を進め、その解明を図ったりするような学習活動が求められます。特に、歴史的な因果関係の説明を促す「なぜ」の重要性に十分留意する必要があります。

○日本史Bにおける「歴史を考察し表現する学習」について

(1) ア歴史と資料
(歴史は資料に基づいて)

遺跡や遺物、文献などの様々な歴史資料

→ 資料に基づいて歴史が叙述されていること

導入

(2) ア歴史の解釈
(資料に基づく歴史解釈)

歴史資料を含む諸資料：推移や変化、因果関係

→ 歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈

技能習得

(3) ア歴史の説明
(歴史には複数の解釈)

歴史的な事象には複数の解釈が成り立つ

→ その根拠や論理を踏まえて筋道を立て、考えを説明

技能成長

(4) (5) (6) 近代・現代の日本と世界

豊富な資料、多様な解釈、現代との結び付き

→ 身に付けた力を活用して考察・表現し、さらに発展

活用・発展

(6) ウ歴史の論述
歴史資料を含む諸資料：推移や変化、因果関係

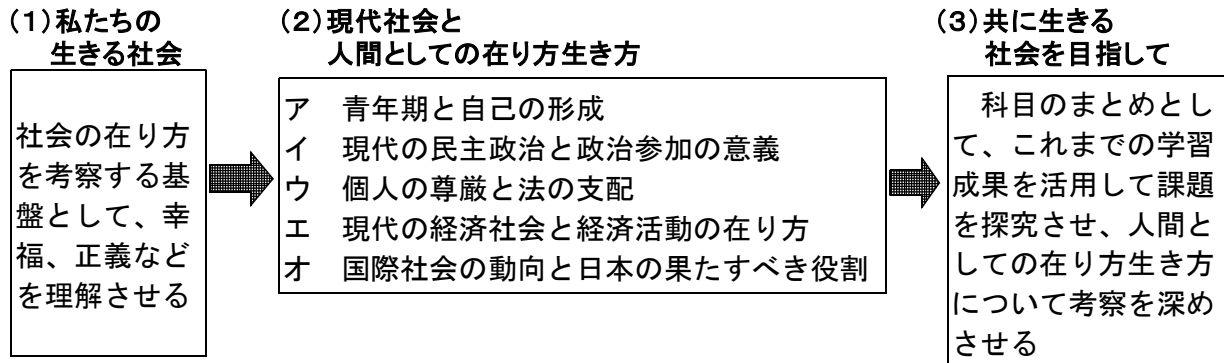
→ 適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し表現

まとめ

【公民】

Q 7 : 「現代社会」の内容で、新たに設けられた大項目「(1) 私たちの生きる社会」は、どのような位置付けの項目なのですか。

A 7 : 「現代社会」の内容構成は次のようになっています。



つまり、大項目(1)で社会の在り方を考察するための基本的な枠組みを構成する幸福、正義、公正などを理解させ、これを基盤として、大項目(2)において、現代社会について倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させ、さらに大項目(3)では、この科目のまとめとして、大項目(1)、(2)の学習成果を活用して課題を探究させる、という構成になっています。

現代社会の諸課題を検討するためには、何が課題となっているのか、どのような主張の対立があり、それぞれの主張はどのような関係になっているのかを整理した上で考察を進めることが大切です。大項目(1)において、社会の在り方を考察するための基本的な枠組みをしっかりと理解させることが、その後の学習を効果的に進めるポイントであるといえます。

Q 8 : 公民科の授業の中で、言語活動を充実させる手法には、どのようなものがありますか。

A 8 : ここでは、公民科の授業において有効な、言語活動を充実させるための手法の一例として、「ジグソー法(ジグソー学習)」と「紙上対話」を紹介します。

- 「ジグソー法」とは、協同学習と教え合いを柱とした学習スタイルで、具体的には、次のような手順により行います。

- ① 数名のグループをつくり、グループ内で課題を分担する
- ② 各グループの同じ課題を分担する者同士で新しいグループをつくり、課題を探究する
- ③ 最初のグループに戻り、課題別グループで調べたことを報告し合う

「ジグソー法」により、生徒の主体性やコミュニケーション技能の向上が期待できます。

- 「紙上対話」とは、各自が作成したレポートに対し、クラスメートが質問や意見、気付きを記入し、レポート作成者がそれらに対して、さらにコメントを記入するという学習法です。この学習法は、グループ等で直接対話する場合に比べて、生徒に落ち着いて思考を深めさせる効果が期待できます。

【数学】

Q9：「数学Ⅰ」や「数学A」の課題学習について、課題設定、実施及び評価をどのように行ったらよいですか。

A9：「課題学習」では、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにすることが求められているため、課題については、日頃から生徒が関心を持ちそうな話題や生徒に育てたい能力とその能力を育てるために相応しい話題などを考えておくこと、生徒の疑問を課題として取り上げたり、生徒の疑問を課題として設定させたりすることなどが大切です。

実施については、内容との関連を踏まえ、適切な時期や場面を考慮するとともに、一方的に知識を与えるのではなく、数学的活動を一層重視することが大切です。

数学的活動： 数学学習にかかわる目的意識をもった主体的な活動

- 自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えたり、それを発展させたりすること。
 - 学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用すること。
 - 自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり、議論したりすること。
- なお、数学的活動は、コンピュータなどを積極的に活用することによって一層充実したものに行うことができる。

評価については、設定した課題に対する目標や観点別の評価規準を定め、観察やレポート等により評価することができます。なお、「課題学習」をテストで評価することは、「課題学習」の本来の趣旨と異なるため適切ではありません。

Q10：「数学Ⅰ」の「データの分析」について、どのようなことに留意して授業づくりをしたらよいですか。

A10：「データの分析」では、統計の用語の意味やその扱いについて理解させるとともに、例えば表計算用のソフトウェアや電卓も適宜用いるなどして、目的に応じデータを収集・整理し、四分位数、四分位範囲、四分位偏差、分散、標準偏差、散布図及び相関係数などに着目させ、データの傾向を的確に把握することができるようにすることがねらいです。

なお、指導に当たっては、生徒が意欲をもって学習を進めることができるように、テーマを適切に選び、具体的な事象に基づいた扱いをすることが大切です。

統計内容を学習することにより身に付けさせたい能力

- データの散らばり及びデータの相関に関心をもつとともに、統計的な考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。
- 事象をデータを用いて考察し、その傾向などを的確に表現することができる。
- 事象をデータを用いて表現・処理する仕方やデータの傾向を把握する方法などの技能を身に付けている。
- データの分析における基本的な概念、原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

特に多くのデータを扱う場合には、コンピュータなどを積極的に活用するようにします。

【理科】

Q11：「科学と人間生活」の科目の目標を達成するためには、どのような指導計画を立てるとよいのですか。

A11：この科目における学習は中学校理科での学習内容を基に、身近な事物・現象に関する観察・実験を通して、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、科学に対する興味・関心を高めることを主な目標としています。教科書の記載事項を網羅的になぞる授業では科目の目標を達成することは難しくなります。「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」ということを意識した指導計画が必要です。

大項目	＜学習指導要領の大項目と関連した学習活動例＞		
科学技術の発展	【学習活動例】 ①科学技術の発展に関する映像教材等の視聴 ②興味をもった内容についての調べ学習 ③調べたことの発表 ※理科の学習内容のどの部分が基になった科学技術なのかを意識させると効果的です。		
人間生活の中の科学	中項目	小項目 (ア)か(イ)を選択	【学習活動例】 ①各単元の基礎的・基本的な事項の学習 ②関連した身近な事物・現象の例示や再現 ③関連した内容に関して、簡単にできる観察・実験(演示実験・生徒実験) ※各学習内容に関して①～③を1セットにして指導計画を立てると効果的です。
	熱や光の科学(物理系)	(ア)光の性質とその利用 (イ)熱の性質とその利用	
	物質の科学(化学系)	(ア)材料とその再利用 (イ)衣料と食品	
	生命の科学(生物系)	(ア)生物と光 (イ)微生物とその利用	
	宇宙や地球の科学(地学系)	(ア)身近な天体と太陽系における地球 (イ)身近な自然景観と自然災害	
これからの科学と人間生活	【学習活動例】 ①生徒が興味をもった内容についての探究活動 ②各先生が得意とする専門分野について、適宜教材を追加しながら観察・実験を取り入れた探究活動 ※先生と生徒が共に試行錯誤しながら実験を行うことが、科学的に探究する能力と態度の育成につながります。		

Q12：観察・実験において、生徒の思考力・判断力・表現力を育成し、それらを評価するためには、どのような工夫をすればよいのですか。

A12：「思考・判断・表現」は別々に切り離すのではなく、一連の活動の中で総合的に評価する必要があります。具体的な現象の観察や実験データを基に、「なぜそのようになったのか(思考・判断)」を考え、「自分の考えを言葉や文章・図表を使って分かりやすく他者に伝える(表現)」活動が重要です。思考・判断を評価するためには生徒に表現させなければなりません。

工夫のポイント

【学習前後での生徒の思考の変化が分かるようにワークシートを工夫】

- ①観察・実験の前に生徒に予想させる(仮説を立てさせる)。
 - 「なぜ、そのような予想(仮説)を考えたのか」を理由を付けて記述させることが重要です。
- ②観察・実験の結果から、最初の予想(仮説)の正当性を検証させる。
 - 自分の考えた予想(仮説)との違いを理由を付けて論理的に記述させ、発表させることが重要です。

【発問の仕方を工夫】

教員が日々の授業において、「なぜそう考えるのか」という点を意識した発問をし続けることで、徐々に生徒の思考力・判断力・表現力が育成されていきます。

【外国語】

Q13：4技能の総合的な指導を通して、これらの「4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力」を育成するとはどういうことですか。

A13：「総合的な指導」とは、バランスの良いという意味です。コミュニケーション力育成のためには、「聞く」、「話す」、「読む」及び「書く」の4技能をバランスよく指導しなければなりません。現行の学習指導要領においても、「実践的なコミュニケーション能力」の育成のための指導が求められてきましたが、文法解説や訳読が大きなウェイトを占める授業が見られ、その結果、4技能の指導において偏りがあることが課題でした。

「統合的な指導」とは、一つの技能のみを指導するではなく、4技能を相互に関連付けた言語活動を行うことで、例えば、次のような例が挙げられます。

○聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりすること。

○聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書くこと。

なお、統合的な指導では、教室を現実の英語の使用場面に近い状況に設定し、内容中心の言語活動の中で、英語の語句や文構造、文法事項などを活用し、定着を図ることが重要です。

4技能の総合的・統合的な指導については、CAN-DOリストの活用が効果的です。県教委では「平成24年度英語力を強化する指導改善の取組事業」における拠点校や協力校の取組を「授業事例集」としてまとめ、その中で、各校のCAN-DOリストとそれに基づいた授業の指導案を示しています。是非、そちらも参考にしてください。

Q14：「授業は英語で行うことを基本とすること」について詳しく教えてください。

A14：「授業は英語で行うことを基本とする」こととは、単に、従来行われていた教師による解説中心の授業を英語で行うことではありません。教師が授業を英語で行うとともに、生徒も授業の中でできるだけ多く英語を使用することにより、英語による言語活動を行うことを授業の中心とすることです。

これは、授業の中で、生徒が英語に触れたり英語でコミュニケーションを行ったりする機会を充実するとともに、生徒が、英語を英語のまま理解したり表現したりすることに慣れるような指導の充実を図ることを目的としています。

しかし、授業のすべてを必ず英語で行うことを意味するものではありません。英語による言語活動を行うことが授業の中心となっていれば、必要に応じて、日本語を交えて授業を行うことも考えられます。

例えば、文法は英語で行う言語活動と効果的に関連付けて指導するよう配慮することとなっていますが、これらのことを踏まえ、言語活動を行うことが授業の中心となっていれば、文法の説明などは日本語を交えて行うことも考えられます。

また、生徒の英語によるコミュニケーション能力に懸念がある場合は、教師は、生徒の理解の状況を把握するように努めながら、簡単な英語を用いてゆっくり話すなど、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう配慮する必要があります。

【家庭（共通教科）】

Q15：自己評価シートの活用による学習支援について効果的な方法がありますか。

A15：学習内容のまとめりごとに到達状況や理解度を確認することができるよう、下記のねらいを踏まえて作成する自己評価シートが考えられます。

なお、教師はこの自己評価シートを基に、単元の目標や指導の見直しを行うなど授業改善に役立てていくことが大切です。

- 学習の到達目標を学習内容のまとめりごとに示すことで、自己の学習課題に気付かせる。
- 文章で解答させる問いを設けることで、理解したことを言語で表現する力を養うとともに学習の定着を図る。
- 個に応じた支援ができるよう、「教師からのアドバイス」欄を設ける。

【自己評価シート例】

学習内容	高齢者の心身の特徴と生活	
到達目標	高齢者の身体的・心理的特徴の概要と高齢者の現状を理解する。	
到達目標の確認		ヒント
1 高齢者の心身の特徴について		
・高齢者の身体的特徴について理解できた。	A B C D	プリント p.○ 教科書 p.○
・高齢者の心理的特徴について理解できた。	A B C D	
〔問い〕高齢期になると身体的にどのような変化が見られるか。説明しなさい。		
【教師からのアドバイス】		

【情報（共通教科）】

Q16：他の教科・科目等との連携はどのように図ればよいのでしょうか。

A16：共通教科情報科の目標は、情報活用能力を育むことですが、それは情報科の学習だけで達成されるものではなく、各教科・科目等のすべての教育活動を通して達成されるものです。

したがって、情報教育の目標の観点に基づいて、各教科・科目等と密接な関連を図りながら計画的な指導によって実践的な情報活用能力を育成することが大切です。特に、公民科や数学科では、情報教育の視点や共通教科情報科との連携を図ることについて、それぞれの学習指導要領に示されていることから、これらの教科との連携は留意する必要があります。連携する教科等のねらいを十分に達成するとともに、共通教科情報科においては、情報手段を活用した実習などの実践的・体験的な学習活動を積極的に取り入れ、理論や動作を生徒に実感を伴って理解させることができるような学習活動が望まれます。

なお、指導計画の作成に当たっては、次のような工夫が考えられます。

- 履修年次を考慮する。
早い学年で履修させることで、情報科で学んだことを他教科に役立てます。
- 指導内容の実施時期について、相互に関連付けながら決定する。
例えば、情報科でプレゼンテーションについて学習した後で、各教科等でプレゼンテーションを取り入れた学習活動を展開します。
- 教材等を共有する。
連携する教科の教材を取り上げることで、当該教科の学習内容の理解を深めるとともに、情報科では、実践的な活用により学習の目的を明確にもたせることができます。
- 学習課題と情報手段を活用した学習活動と実習の有機的な関連を図る。
例えば、情報の収集から発信までができるようになれば、各教科等の調べ学習に生かされます。

【総合的な学習の時間】

Q17：パフォーマンス課題に基づく評価方法にはどのようなものがありますか。

A17：具体的な学習課題の達成度状況を段階的に示した「ルーブリック評価（指標：rubric）」という評価方法が注目されています。

学習の達成度を判断する教育評価法として、これまでは客観テストによるものが主流を占めていましたが、知識・理解はそれで判断できたとしても、パフォーマンス系（思考・判断、スキルなど）の評価は難しかったため、パフォーマンス課題の評価として盛んに用いられ始めたのがマトリクス形式で示す評価指標表（ルーブリック）を用いた評価です。

ルーブリック評価では、被評価者と評価者の双方にルーブリック（評価指標表）を用いて予め「評価軸」を示し評価の観点を明らかにすることになります。「何が評価されることがらなのか」についての情報を共有することで、評価者ごとのズレの発生を抑制し、被評価者への答案やレポート等のフィードバックを促進する上で有効といわれています。

※ 濱名 篤「ルーブリックを活用したアセスメント」中央教育審議会高等学校教育部会（第15回 2012.11.19）配付資料より抜粋

〈参考〉ルーブリック（評価指標表）の作成の具体例

【設定：生徒がレイアウト作品を作成する場面】

学習到達しているレベル(段階)	パフォーマンスの形での評価指標
達成の度合いを示す数値的な尺度(scale)、段階水準、評価規準	それぞれの尺度に見られるパフォーマンスの特徴を示した記述語(評価の視点や観点の当たるもの)
4 優れている	伝えたい内容に軽重をつけ、見出しをつけて書面全体に分割して表現しようとしている。主張したい内容に即して効果的な資料を写真・表・グラフ等から選択して配置している。
3 おおむねよし	自分が伝えたい内容を書面全体に分割して表現しようとしている。書面全体の中に、写真・表・グラフ等の資料を配置している。
2 努力を要する	内容を書面全体に分割して表現しようとしている。伝えたい内容が焦点化されず網羅的である。
1 不十分である	内容ごとに分割されていない。

※ 勝美健史「ルーブリック」【梶田勲一・加藤明 監修・著『改訂実践教育評価事典』文溪堂、2010、P237】

＜ルーブリック作成の手順例＞

- ① 生徒の学習活動で作成された実際の成果物(作品等)を多数用意する。
- ② それらを「優れている」「おおむねよし」「努力を要する」の3段階のいずれに該当するかを各教師が付箋で他に見えないように成果物に貼付する。
- ③ 全員が同じ段階と判断した成果物を抽出し、その成果物の特徴を各教師が、ワークシートに具体的に記述する。
- ④ 教師全員が「おおむねよし」として一致した成果物に見られる特徴を改めて共同で抽出する。
- ⑤ 同様に、「優れている」「努力を要する」に属する典型的な成果物と特徴の記述をまとめて、ルーブリック（評価指標表）として完成する。